



7月の園だより

令和7年6月25日

杉並区立成田西子供園

園長 齋藤 由美

『子どもの“わくわく”に目を向けて』

主任教諭 松田陽

『とうきょう すくわくプログラム』の取り組みが今年度より始まりました。この取り組みでは、各園の実態に合わせた年間テーマを設定し、活動を進めていきます。子どもの“わくわく”と心動かす瞬間を丁寧にとらえ、保育者が意図的に保育環境をデザインしていく中で、幼児が探究的に遊ぶ楽しさを経験できるようにします。

本園ではテーマを『自然』に設定し、様々な活動を計画しています。4月末には、取り組みの最初のきっかけとして、“自然博士のなおきさん”をお迎えし、いるか組の子どもたちと善福寺川緑地公園に自然探検へ行きました。身近な公園でも、“自然博士のなおきさん”がいることで、子どもたちはいつも以上に草花に関心を寄せ、次々と質問をしていました。散歩から帰った後も、いるか組の子どもたちの気持ちは雑草やそこに集まってくる虫たち、園庭で発見したキノコなどに向かい、それぞれの興味のもとに関わりが続いていっていました。

楽しいことは、学級の枠を超えて、他学年の幼児にもどんどん広まっています。「何してるの?」「ここにダンゴムシがいっぱい住んでるんだよ」といった幼児同士の会話から、ぺんぎん組へ、その数週間後にはらっこ組へと伝わっていきました。でも、関わる子どもの年齢やこれまで経験してきたこと、好きな遊びが違っていると、全く違った方向へと活動が展開していきます。

いるか組では、あるお子さんが連れてきたアオムシに学級のみんなが思いを寄せて、毎日愛おしそうに変化を眺め、成長を喜び、旅立ちを嬉しそうに見守っていました。その間に、ペーパー芯やモールを使った虫作りや、「オリジナル虫図鑑」作りが一部の子の間でブームになり、たくさんの虫や手作り図鑑ができあがり、虫博物館のようになっていきました。本物についてより詳しく知りたい、本物のように作りたい、といった知的探究心は年長組らしい姿です。

ぺんぎん組では、ダンゴムシを見る楽しさから、自分たちでダンゴムシの公園を作り、そこでダンゴムシが動く様子を見ることが楽しくなっていました。大小様々な空き箱やカップを見付けてきては、つなげたり組み合わせたりして、ダンゴムシを遊ばせようとします。そうしている間に、ダンゴムシにさらに愛着が湧き、自分たちと同じように感情移入するようになっていくと、「自動販売機もあると喜ぶだろう」「素敵なお飾り付けもしたらいい」など、たくさんの“してあげたいこと”が生まれてくるようになりました。ハサミやセロハンテープがある程度自分の思い通りに使えるようになり、作ることが楽しくなっていることも、遊びの楽しさにつながっていたのでしょう。

らっこ組の子どもたちは、対象そのものと関わるのが楽しくて仕方ありません。それを使って遊ぶ、ということではなく、毎日毎日、ダンゴムシたちの集まる場所に行っては、それぞれのバケツやカップにたくさん集め、近くの幼児同士で見せ合い、そっと触り、そしてまた草むらに逃しながら、繰り返し関わることを楽しんでいます。大好きなダンゴムシと毎日関わる中で、やさしく触るという力加減を覚えたり、虫たちがどんな場所が好きなのかを感覚的に知っていったりしています。

春の虫との関わりだけでもこれだけ多様な楽しさ（探究する姿）を見せてくれる子どもたちです。1年間でいったいどんな“わくわく”が待っているのか、保育者側が置いていかれないように、それぞれの幼児の心もちにしっかりと目を向けて、大切に捉え、それぞれの興味に寄り添った援助をしていきたいと思っています。

様々な活動の様子は日々の貼り出し日誌や『すくわくプログラム活動報告』でもお伝えしていきます。子どもたちの今楽しんでいることを保護者の方とも共有しながら、遊びを通して子どもたちの成長を支えていきたいと思っています。この夏、ご家庭でも“わくわく”と心を動かしている姿がありましたら、ぜひ園にもお知らせくださいね！

★ 子どもたちの様子と今月のねらい・おすすめ絵本 ★

3 歳児らっこ組

♡子どもたちの様子♡

園庭や保育室のウレタン積み木を運び出して簡単な場を作ったり、いろいろな素材を組み合わせて形にしたりすることを楽しんでいます。お家や乗り物に見立てた場で、ご飯を食べたり、お出かけをしたりするなど、思いついたことを動きで表すようになっていきます。また、砂場では、泥水の感触や水の気持ち良さを楽しむ経験を重ねています。

天気の良い日には、存分に水遊びやプール遊びを楽しんで、水に触れる気持ち良さや開放感を味わえるようにしていきます。そして、着替えや水着の始末も、繰り返し経験することで、手順が分かり、自分でできた嬉しさを感じられるようにしていきます。

✿今月のねらい✿

○水遊びやプール遊びで、水の感触を楽しんだり、解放感を味わったりする。

○自分のやりたいことを見つけて遊んだり、同じ場にいる幼児と一緒に過ごしたりすることを楽しむ。

○着替えの仕方が分かり、自分で行おうとする。

◆おすすめ絵本◆

『ありとすいか』 たむらしげる：作・絵 / ポプラ社

『たなばたバス』 藤本ともひこ：作・絵 / 鈴木出版

4 歳児ぺんぎん組

♡子どもたちの様子♡

おうちごっこや、警察官ごっこ、プリンセスごっこなど、やりたい遊びに合わせた場を友達と作っています。その中で、「テーブルがあるといいよね。」「冠があったらいいなあ。」と遊びに必要なものや身に着けるアイテムを作ることや、「ここに泥棒が入るってことね。」と自分なりに遊びのストーリーに沿って動いてみることで、なりきって話す姿等が見られるようになってきました。

また、暑い日にはぺんぎん組前に設置されたプールに入ったり、フィンガーペインティング等の夏ならではの活動も取り組んだりし、水の冷たさや気持ちよさを感じることで、いつもとは違う活動の新鮮さを味わえるようにしています。今月も、水に触れながら様々な楽しみ方をする中で、水の感触を楽しみ、のびのびと動き、開放感をより味わえるようにしていきます。

✿今月のねらい✿

○友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを動きや言葉にする楽しさを味わう。

○水の感触を楽しみながら、様々な遊びや動きをすることで、開放感を味わう。

○暑い日の生活の仕方を知り、自分から行おうとする。

◆おすすめ絵本◆

『10ぴきのかえるのプールびらき』 間所ひさこ／作 仲川道子／絵 PHP 研究所

『めっくら もっくら どおんどん』 長谷川摂子：作／ふりや なな：画／福音館書店

5 歳児いるか組

♡子どもたちの様子♡

少しずつ暑さを感じるようになり、水や氷に触れる遊びが心地よくなっています。園庭では、ヒューム管や樋をつなげて水路づくりをしたり、花がらを使った色水づくりを繰り返したりしました。また、「色水をきれいにしておきたい」という思いから、冷凍庫で凍らせ、氷になった様子も楽しむようになりしました。氷のひんやりとした感触に触れたり、色のきれいさ、凍らせたときにトゲトゲと見える模様の面白さに気付いたりしました。水や氷などの自然に触れる中で、感じたことや気付いたことを言葉に表し、友達と伝え合うような姿もあります。

6月中旬には、いるか組がプール掃除をして、いよいよプール遊びが始まりました。水の心地良さや開放感がたっぷり味わえるようにしていきます。

✿今月のねらい✿

○プール遊びを通して、開放感や水の中で体を動かして遊ぶ充実感を味わう。

○自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを聞いたりして、友達とのつながりを感じながら遊ぶ。

○夏野菜の収穫の喜びを感じ、食材に興味をもって食べてみようとする。

◆おすすめ絵本◆

『イモムシかいぎ』 市居みか：作・絵／小学館

『なつのいちにち』 はたこうしろう：作／偕成社